

日本は今、経済的な混乱期にさしかかっています。しかし業態は様々であつても、変えてはならない根本的なものがあります。それは、周囲の声に忖えて向上しようとする克己心です。

清掃を生業とするH氏。従業員数30人、アルバイトも含めると130人という規模です。氏は本来、祖父の立ち上げた会社の三代目になるはずでした。それが、父親がある人の保証人になつたことがきっかけで、後にすべての店をたたみました。氏が22歳の時の出来事でした、急に態度を180度変えた銀行、冷たくなつた世間に遭遇し、氏は人間不信に陥つたのです。

しかし、その悔しさをバネに、いつか冷たくなつた世間を「見返してやろう」「祖父が創つた会社以上の会社を」との決意から、26歳で脱サラをし、雑誌で知つた「お掃除屋」のフランチャイズに加盟しました。

しかし一年後、フランチャイズの母体が倒産し夜逃げ。その後はその日の生活費がなく、妻と幼い娘との生活が苦しく、妻には大きな迷惑をかけました。周囲の助けを借りて、一応の生活ができるようになったのは33歳の時でした。

会社が軌道に乗るようになると、H氏は毎晩飲み歩く日が続きました。その時は「何とかなるだろう」と思っていました。が、気持ちとは裏腹に家庭はメチャクチャ。会社は社員の交通事故、労災事故、横領事件、金銭回収不能など、ありとあらゆる災難に



## 経営者は企業の軸 堅固な柱が社を守る

見舞われました。

そのような時に純粹倫理と出合つたのです。そして『万人幸福の棊』を得て、「夫婦対鏡」の中に、「結婚の当時はうまくゆくが、次第に離れて、全くはんたいの方向にさえ行つてしまう事がある。そうになると、家のことは、ちぐはぐになつて、仕事も商売もうまく行かなくなる」という一文を知つたのです。

夫婦の心は一つになるべきと知つたH氏は、これまでの飲み歩く生活を朝型の生活に一変させ、夫婦仲の改善を図りました。自分勝手な生活を改め、妻との時間を楽しむためにゴルフを二人で始めました。

夫婦仲が良くなるにつれ、家庭に笑顔が溢れるようになりました。併せて、全社的にどんな小さな取引も大切にしていきました。その結果、この不況下でも黒字経営を10年連続しています。

H氏は、一時は飲み歩き、周囲の厳しい叱咤が届かないことがありましたが、根本的なことを大切にしたら結果、人生の盛り返しにつながりました。

企業は「軸」なくしては進むべき方向は見えません。街路樹が風雨で倒れないように添え木をするように、自分自身に対して、必要な時に必要な軌道修正を施すのが、企業の軸たる経営者のあるべき姿です。基本の軸は夫婦仲にあります。経営者の喜怒哀楽する姿を見る夫(妻)との関係を振り返り、心を一つにしていきたいものです。

え・牧えみこ